

第4節 しなやかで安心して住めるまち 《安全安心》

テーマ	施策	主な施策展開	担当課	ページ
1 防災・消防	1 防災体制の充実	(1)災害予防体制の充実	防災対策課	103
		(2)自助・共助の取り組みの強化	防災対策課	103
		(3)災害応急体制の充実	防災対策課	103
		(4)災害復旧対策の強化	防災対策課	103
	2 消防・救急体制の充実	(1)消防体制の充実	防災対策課	103
		(2)救急体制の充実	健康管理課	103
2 道路	1 生活道路の整備	(1)人にやさしい道路の整備	土木建設課	106
		(2)道路インフラ施設の維持管理	土木管理課	106
	2 災害時における道路網との連携	(1)広域幹線道路網との連携	土木建設課	106
3 河川等	1 河川の整備	(1)二級河川の整備	土木建設課	109
		(2)準用河川の整備	土木建設課	109
	2 内水対策の推進	(1)排水施設の整備	土木建設課	109
		(2)流出抑制の推進	土木建設課	109
4 防犯	1 防犯体制の充実	(1)防犯意識の向上と活動の推進	生活課	112
		(2)防犯施設の適正配置	生活課	112
5 交通安全	1 交通安全対策の推進	(1)交通安全意識の向上と活動の推進	生活課	115
		(2)交通安全施設の整備	土木管理課	115
		(3)安全安心な歩行空間の整備	土木建設課	115
		(4)交通事故被害者の救済	生活課	115
		(5)放置自転車対策の推進	都市計画課	115
6 消費生活	1 消費者の自立支援	(1)消費生活センターの充実	生活課	118
		(2)消費者教育の推進	生活課	118
		(3)地域見守り力の向上	生活課	118

テーマ 1 防災・消防



基本方針

市民の生命、身体及び財産を守るため、豪雨による被災経験などを踏まえて防災体制を強化し、安全な地域社会づくりを進めます。また、火災の大型化、複雑化や超高齢社会に対応した消防・救急体制の充実を図ります。

現況と課題

社会全体の現況と課題

- 近年の我が国では、地震災害や、台風などによる風水害が頻発しています。本市でも、令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風及び令和元年 10 月 25 日に発生した大雨により浸水被害等が発生し、市民生活に大きな影響を受けたところです。

茂原市の現況と課題

- 社会の高齢化や都市化の中、このような風水害や地震災害に対応するため、国土強靱化地域計画に基づく災害等に強い地域づくりを推進する必要があります。
- 防災体制については、市民が自らの命を守る「自助」、協力して助け合う「共助」の重要性が高まっています。今後も、市民の自主的な取り組みを促すとともに、地域防災計画の見直し、備蓄品の整備及び情報システムに基づく的確な防災対策の充実を図っていく必要があります。また、災害発生後は、高齢者などに配慮した避難所環境の整備や迅速なライフラインの復旧が必要となります。
- 火災については、既存密集市街地や高層建築物等により、大型化、複雑化の傾向にあります。市民や事業者の防災意識の高揚を図りつつ、火災予防活動を徹底し、火災の未然防止に努める必要があります。また、消防体制については、高度な機能を有する施設や新しい技術を備えた装備等を充実するとともに、消防団については、消防団員の確保や施設・装備の更新を行い、活性化を図る必要があります。
- 救急体制については、超高齢社会における救命率の向上を図るため、市民への救急意識の啓発を図りつつ、体制の更なる充実に努める必要があります。

施策1 防災体制の充実

(1) 災害予防体制の充実

- ◇ 災害に強いまちづくりに向け、国土強靱化地域計画の具現化を図るとともに、地域防災計画の見直しや災害情報伝達機能の強化に努めます。

(2) 自助・共助の取り組みの強化

- ◇ 自然災害から市民の生命・身体・財産を守り、被害を最小限にするため、災害発生時に自ら考え行動できるように防災教育を推進するとともに、生活必需物資等の備蓄を促進し、「自助」の取り組みを強化します。
- ◇ 地域における防災活動の核となる人材を育成するため、災害対策コーディネーターの養成、自主防災組織の結成・活動を支援するとともに、災害時における要配慮者対策を推進し、「共助」の取り組みを強化します。

(3) 災害応急体制の充実

- ◇ 高齢者などの要配慮者に対応した避難所の整備に努めます。
- ◇ 支援物資の供給体制の強化及び災害備蓄品の整備拡充を図るため、協定締結による関係機関との連携強化に努めます。
- ◇ 災害発生時に被害を最小限にとどめるため、実践的な防災訓練を実施するとともに、防災関係機関との連携強化を図ります。
- ◇ 広域医療救護所の設置により、迅速かつ効率的な医療救護体制を整備します。

(4) 災害復旧対策の強化

- ◇ 電気、電話、ガス、水道等のライフラインについて、関係機関と連携し、迅速な復旧に努めます。
- ◇ 公共施設及び農林施設等について、各災害復旧計画に基づき、迅速に復旧します。

施策2 消防・救急体制の充実

(1) 消防体制の充実

- ◇ 火災が大型化、複雑化の傾向にあるため、市民の防火意識の高揚を図り、火災予防活動を実施するとともに、消火訓練を行います。
- ◇ 長生郡市広域市町村圏組合の消防施設・設備の充実、強化を図るとともに、消防団の団員の確保や活動の活性化を図ります。

(2) 救急体制の充実

- ◇ 迅速な救急や救命率の向上を図るため、広報紙等による応急救護の知識の普及など市民への救急意識の啓発を図るとともに、応急救護訓練を実施します。

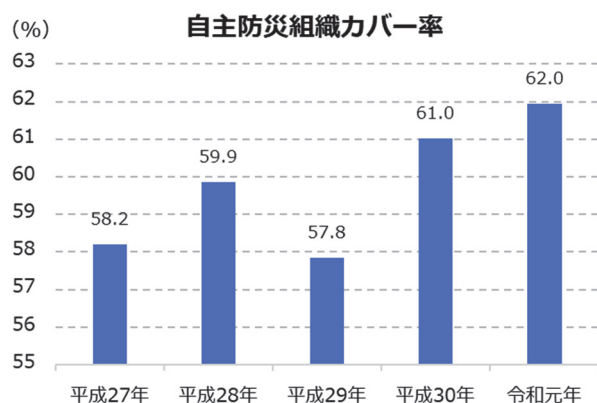
第3編 基本計画

主要指標名	基準値	目標値
自主防災組織カバー率	61.95%（令和元年度）	72.54%（令和7年度）
防災出前講座の参加団体数	9団体（令和元年度）	15団体（令和7年度）
市内消防団員数	472名（令和2年4月1日）	503名（令和7年度）

関連計画
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 茂原市国土強靱化地域計画 ◇ 茂原市地域防災計画 ◇ 茂原市津波避難計画 ◇ 茂原市業務継続計画〈震災編〉 ◇ 茂原市避難行動要支援者避難支援プラン ◇ 茂原市地域防災力向上計画

関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み	
時間的視点	防災教育や自主防災体制の強化を推進することにより、各年代における「自助」と「共助」の意識高揚に努めます。
空間的視点	国・県や関係機関と連携しながら、広域的な観点から災害応急体制の充実等に努めます。

施策の対象となる領域			
	個人・家庭	生活圏域	市域・広域
生まれる・育つ・学ぶ			
働く			
老いる			



▶ 配備された水槽付消防ポンプ自動車



基本方針

子どもや高齢者をはじめ、誰もが通行しやすく人に優しい道づくりに努めます。道路の利便性と安全性の向上を図り、市民生活を支える生活道路の整備を推進します。また、計画に基づき、道路・橋梁などの適切な維持管理に努めます。

現況と課題

社会全体の現況と課題

- 道路は、交通機能・空間機能などを有し、人々の生活や経済活動に不可欠な社会基盤として、大きな役割を果たしています。近年の我が国では道路の老朽化が問題となっており、適切な維持管理が課題となっています。

茂原市の現況と課題

- 近年の交通の多様化と車両の大型化に伴い、交通渋滞や道路破損が生じており、道路交通の利便性と安全性を確保した道づくりが急務となっています。そのため、市民生活に密着した、人にやさしい安全な生活道路の整備を行う必要があります。
- 自動車交通により発生している交通渋滞は、主に交差点で発生しています。誰もが通行しやすい安全な交通環境の確保のためにも、交差点の整備を進める必要があります。
- 本市における市道は、令和2（2020）年4月1日時点で実延長が835.7 km、うち舗装延長は789.2 kmであり、舗装率は94.4%となっています。また市内には、橋梁が181橋、トンネルが6箇所あります。これらのインフラ施設の安全を確保するために、個別の修繕計画に基づく老朽化対策を、着実に実施していく必要があります。
- 近年、全国的に地震が頻発しており、地震をはじめとする災害への備えが急務であるため、災害を見据えた道路整備を行う必要があります。

施策1 生活道路の整備

(1) 人にやさしい道路の整備

- ◇ 市民生活の安全を確保するため、緊急車両が進入できる道路整備を推進します。
- ◇ 交通渋滞を緩和し、利便性と安全性を確保した道路整備、交差点整備を進めます。
- ◇ 都市計画道路の見直しにより、代替えとなる路線や圏央道インターチェンジ周辺の道路など、先行して整備が必要となる路線を優先して整備を進めます。

(2) 道路インフラ施設の維持管理

- ◇ 茂原市公共施設等総合管理計画及び各修繕計画に基づき、老朽化した橋梁・トンネル・舗装・その他道路附属施設の合理的な維持管理に努めます。
- ◇ 道路機能を適切に維持し、安全安心に通行できるよう道路管理を推進します。

施策2 災害時における道路網との連携

(1) 広域幹線道路網との連携

- ◇ 災害時に緊急輸送道路としての役割を担う広域幹線道路網と連携した道路整備を推進します。

主要指標名	基準値	目標値
各修繕計画に基づく道路ストック*の修繕率	3.2%（令和元年度）	32.5%（令和7年度）

関連計画
<ul style="list-style-type: none"> ◇ 茂原市公共施設等総合管理計画 ◇ 茂原市橋梁長寿命化修繕計画 ◇ 舗装個別施設計画 ◇ 道路附属物等個別施設計画 ◇ 茂原市道路トンネル修繕計画

関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み	
時間的視点	子どもから高齢者まで、誰もが通行しやすい道づくりに努めます。
空間的視点	安全性や利便性を考慮し、優先順位を付しながら計画的に整備を進めます。

施策の対象となる領域			
	個人・家庭	生活圏域	市域・広域
生まれる・育つ・学ぶ			
働く			
老いる			



▶ 昌平橋の修繕工事の様子

テーマ 3 河川等



基本方針

令和元年 10 月 25 日の豪雨による浸水被害を踏まえ、市内を流れる一宮川をはじめとする二級河川の治水安全度を高めるため、改修の促進を関係機関に働きかけます。また、準用河川の改修を推進するとともに、適正な維持管理に努めます。

現況と課題

社会全体の現況と課題

- 河川は、治水・利水機能のほか、防災・環境保全など様々な機能を果たしています。近年、全国的に豪雨災害が発生する中、河川の治水面での安全性が改めて注目されています。

茂原市の現況と課題

- 一宮川水系については、過去 30 年間で 4 度の浸水被害が生じたことを踏まえ、令和元年 10 月 25 日に発生した大雨と同規模の降雨に対して、関係市町村が行う内水対策や土地利用施策と連携した「一宮川流域浸水対策特別緊急事業」を実施し、被害を受けた家屋や主要施設の浸水ゼロを目標としています。また、南白亀川水系については、赤目川の河川改修や調節池の完成による、JR 本納駅周辺の浸水被害の軽減が求められています。
- 本市には、準用河川として一宮川水系の鹿島川、梅田川、中の島川、道目亀川、西谷川と南白亀川水系の乗川、南豊川があります。準用河川は、日常生活に密着した河川であり、安全で豊かな地域社会を保全するため、治水機能の確保や自然環境に配慮した改修の推進及び適正な維持管理が求められています。
- 近年の気候変動に伴う降雨量の増加や都市化の進展により、農地、山林等の貯水機能を有する土地が減少しているため、雨水の流出量が増大し、住宅地や道路等への浸水リスクが高まっていることを踏まえ、河川流域全体のあらゆる関係者が協働して行う、「流域治水」の取り組みが求められています。

施策1 河川の整備

(1) 二級河川の整備

- ◇ 一宮川水系の一宮川、豊田川、阿久川、鶴枝川の河川改修や調節池の整備を促進することにより、流域内の浸水被害の軽減を図ります。
- ◇ 南白亀川水系のうち、特に赤目川の河川改修と調節池の整備を促進することにより、JR 本納駅周辺の浸水被害の軽減を図ります。

(2) 準用河川の整備

- ◇ 一宮川水系の梅田川、南白亀川水系の乗川の改修を推進します。
- ◇ 安全で豊かな地域社会を保全するため、自然環境に配慮した河川整備を図るとともに、適正な維持管理に努めます。

施策2 内水対策の推進

(1) 排水施設の整備

- ◇ 内水氾濫地区における浸水対策として、排水ポンプの新設や既設雨水ポンプ及び雨水管等の能力増強を推進します。

(2) 流出抑制の推進

- ◇ 既存ため池や水田等を活用した流出抑制を推進します。
- ◇ 雨水貯留槽や雨水浸透枳の設置を推進します。

主要指標名	基準値	目標値
梅田川改修計画進捗率	38% (令和元年度)	88% (令和7年度)
乗川改修計画進捗率	41% (令和元年度)	49% (令和7年度)
雨水貯留槽及び雨水浸透枀による流出抑制量	6,897ℓ (令和元年度まで)	12,897ℓ (令和7年度)

関連計画

- ◇ 準用河川改修事業計画 梅田川
- ◇ 準用河川改修事業計画 乗川

関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み

時間的視点	子どもたちの学びの場、市民の憩いの場など、河川の果たす役割の多様性を踏まえ、自然環境に配慮した河川整備を図ります。
空間的視点	市内を貫流する河川の治水安全度を高めることにより、流域内の浸水被害の軽減を図ります。

第3編 基本計画

施策の対象となる領域			
	個人・家庭	生活圏域	市域・広域
生まれる・育つ・学ぶ			
働く			
老いる			



▶赤目川（未改修区間）



▶赤目川（改修済区間）

